

# I 令和5年度 青森市立南中学校 学校経営について

## 1 校訓について — 考 え る 人 —

校訓である「考える人」は、ロダンの彫刻作品名として、とても有名なものである。その全身全霊を込めて「考えること」に集中している姿こそ、急速に変化していく社会情勢の中で、軽挙妄動を戒め、世情に流されることなく腰を据えて落ち着いて思案を重ねる中、物事の原理原則を見極め、問題の本質を突いて善処していくことの重要性を象徴的に示しているものと言えるのではないかと。奇しくも、今の南中生に最も求められるもののような気がする。

これはまた、「主体的・対話的で深い学び」にも深く関連し、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」とも深く繋がっていくものとも言える。

ともすれば価値の混乱が生じかねない世の中で、主体的に生き抜いていくことはもとより、心の硬直化を防ぐためにも、改めて「考える」ことの重要性を問い直すことが求められている。生徒一人一人に、自ら抱える課題・問題、悩み等々に対して、本気になって「考える」ことのできる、心と生活の余裕を持たせたいものである。

## 2 社会情勢 — 地域の要請・生徒の実態・南中の使命 —

### (1) 社会情勢

近い将来、人口知能（AI）が授業を行うようになるのではないかとという危惧が、以前として消えないように、科学技術の日々の進展には著しいものがある。また、我が国をはじめとした先進国では、少子高齢化、LGBTQ+、グローバル化等により、激しい社会情勢の変化の波に襲われている。国際情勢に至っては、かつての冷戦時代の緊張した均衡による平和が懐かしく感じられるほど、不安定要素が膨らんでおり、それがシンボリックにウクライナとロシアの紛争という現実となって目の前に突きつけられている。

このような解決しがたい課題が積載している国内情勢及び国際社会の現状は、学校教育にも影響を及ぼしつつある。賃金上昇が達成できていない中、消費者物価の高騰が生じ、経済的に困窮している家庭を中心に朝食の欠如、子供の貧困、ヤングケアラーなどの問題が顕著になってきている。また、障害のある子供への合理的配慮が注目され、いじめ・不登校・希死念慮等での「見守りが必要な子供」への対応は、国を挙げての喫緊の課題である。さらには、かねてより課題であった肥満についても、改善の方向には至っていない。

そこで、学習指導要領に立ち返ってみたい。そこには、主体的・対話的で深い学びの推進が謳われているのに気付く。特に主体的な学びの要素として「粘り強く」「工夫しながら」「分かるまで」学習することが挙げられるが、これは、今、子供達に求められているレジリエンスを高めるための「非認知的能力」を育てることに深くつながるものがある。さらに、「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」「クラウドなどを活用した学びのDX（デジタルトランスフォーメーション）」、我が国が積み重ねてきた学校教育とICT教育を融合した令和の日本型学校教育を実現していくことも、教育行政上の課題とされており、学校としては、自校の実情に合わせて、適切に対応していくことが求められている。

その上で、学校に勤務する教職員に対しては、非違行為根絶も大きな課題となっており、子供や家庭の実状に基づかない説明のつかない強圧的指導や体罰等は、もはや絶対に許されない現状を改めて認識しなおさなくてはならない状況となっている。

### (2) 保護者及び地域の実態と地域からの要請について

南中学校区を中心とした地域は、政治経済の中心である県都青森市の中心部に位置している。そのため、保護者はもちろん、学区全体として教育に対する関心は高く、官民問わず要職に就いている保護者を中心に子供達の学力向上のもと、高学歴志向が顕著である。その反面、保護者の中には、様々な支援が必要な家庭もあり、それはそれで、子供が本校で学ぶことで、自己実現できることを強く望んでいる。

一見二極下しているように見える中で、南中の教育の質への高い期待と関心については、どちらも変わることなく、学力と部活動への高い期待と関心をも抱いている。また、学区内町会を中心に、地域貢献への期

待と関心も、地域からの要請として確かにある。

※ 令和4年度学校評価から

① 保護者または生徒の値が3.5未満、かつ教職員との差が0.3以上の項目

ア 分かる授業づくり（学習指導）

| 質問項目                                     | 教職員 | 保護者        | 生徒         | 保護者差 | 生徒差         |
|------------------------------------------|-----|------------|------------|------|-------------|
| 子どもに学ぶ喜びを体験させ、確かな学力の向上を図るわかる授業づくりに努めている。 | 3.6 | <b>3.4</b> | <u>3.0</u> | -0.2 | <b>-0.6</b> |

イ 生徒理解とたくましく成長できることへの支援・指導（生徒指導）

| 質問項目                                   | 教職員 | 保護者        | 生徒  | 保護者差        | 生徒差  |
|----------------------------------------|-----|------------|-----|-------------|------|
| 子ども一人一人を深く理解し、たくましく成長できるよう指導・支援に努めている。 | 3.7 | <b>3.3</b> | 3.5 | <b>-0.4</b> | -0.2 |

ウ いじめの未然防止と組織的な認知・対応（いじめ防止）

| 質問項目                                                                      | 教職員 | 保護者        | 生徒         | 保護者差        | 生徒差         |
|---------------------------------------------------------------------------|-----|------------|------------|-------------|-------------|
| 「学校いじめ防止基本方針」を広報するとともに、地域・保護者との連携を図りながら、当方針に基づき、いじめの未然防止、組織的な認知・対応に努めている。 | 3.8 | <b>3.3</b> | <b>3.4</b> | <b>-0.5</b> | <b>-0.4</b> |

エ 子供達の活躍に向けての工夫と内容の充実（特別活動）

| 質問項目                            | 教職員 | 保護者        | 生徒  | 保護者差 | 生徒差  |
|---------------------------------|-----|------------|-----|------|------|
| 多くの子どもたちが活躍できるよう工夫され、内容が充実している。 | 3.5 | <b>3.4</b> | 3.5 | -0.1 | ±0.0 |

オ 子供達の健康増進や体力向上に向けての取組（健康・体力）

| 質問項目                                         | 教職員 | 保護者 | 生徒         | 保護者差 | 生徒差  |
|----------------------------------------------|-----|-----|------------|------|------|
| 子どもの健康増進や体力向上のために、適度な運動や食などの適切な生活習慣形成に努めている。 | 3.6 | 3.5 | <b>3.4</b> | -0.1 | -0.2 |

カ 配慮が必要な子供達への適切な指導・支援（特別支援教育）

| 質問項目                               | 教職員 | 保護者        | 生徒 | 保護者差 | 生徒差 |
|------------------------------------|-----|------------|----|------|-----|
| 特別な教育的支援を必要とする子どもへの適切な指導・支援に努めている。 | 3.5 | <b>3.4</b> |    | -0.1 |     |

キ 地域の教育力の積極的な活用と地域の要望等の教育活動への反映（保護者・地域住民との連携）

| 質問項目                                                          | 教職員 | 保護者        | 生徒 | 保護者差 | 生徒差 |
|---------------------------------------------------------------|-----|------------|----|------|-----|
| 地域の教育力を積極的に活用するとともに、保護者や地域住民からの意見や要望を教育活動の改善・充実に役立てるように努めている。 | 3.8 | <b>3.4</b> |    | -0.4 |     |

② 保護者の値が3.6以上若しくは保護者・生徒の値が3.5以上の項目

ク 安心・安全な学校生活（安全管理）

| 質問項目                         | 教職員 | 保護者        | 生徒         | 保護者差 | 生徒差  |
|------------------------------|-----|------------|------------|------|------|
| 子どもたちが安全な生活を心がける指導や訓練に努めている。 | 3.8 | <b>3.5</b> | <b>3.7</b> | -0.2 | -0.1 |

ケ 家庭や地域への情報発信（広報・情報提供）

| 質問項目                                              | 教職員 | 保護者        | 生徒 | 保護者差 | 生徒差 |
|---------------------------------------------------|-----|------------|----|------|-----|
| 学校ホームページや学校便り等を通して、家庭や地域の人への、本校の教育活動の周知・理解に努めている。 | 3.9 | <b>3.6</b> |    | -0.3 |     |

### (3) 生徒の実態

生徒の実態としては、保護者の南中の教育の質への高い期待と学力向上への意識の高さもあいまって、小学校時代から基礎的な学力は高く、進んで学習に取り組む姿勢が見られる。ICT機器を活用した学習も市内中学校を牽引してきた実績がある。

ただ、自ら進んで課題を見つけ、解決のために主体的に学習に取り組んでいるかと言えば、まだ十分とは言えない。テスト等では、適切な解答を導き出す過程よりも、答えが合っていればよしとする傾向が全国と比較しても高く、利根的な傾向がないわけではない。何事にも機敏に反応できる資質を有する反面、立ち止まってじっくりと考え、腰を据えて物事の原理原則を見極めるのには、実は不得手のようにでもある。それがまた、人間関係に対しても現れており、情緒が安定していない生徒がいたり、精神面での悩みや不安、希死念慮を訴えたりする生徒もおり、対人関係のトラブルにもつながっている。

部活動については、運動部、文化部問わず、自分の長所をどんどん伸ばして、目標達成に努力し続ける生徒が多く、各種大会やコンクールでは、優れた成果を発揮してきた。全校集会は、その賞状伝達で時間を費やしてしまうほどである。

このような優れた実績を顕著に示してきた本校であるが、ICTを操作することについて無頓着な家庭もあり、軽はずみな内容を書き込んだり、安易に画像を投稿したりする生徒も確かに存在する。生徒指導部で把握し、指導を重ねているが、氷山の一角かもしれない。長期的な展望としては、生徒一人一人のICTリテラシーを高めていくよう、指導を重ねていくことが解決につながっていくと考える。

不登校、希死念慮、ネット上のトラブル等、生徒が抱える、困難な事態は、精神面での幼さ、弱さに起因しているように思われる。コロナ禍の中、本来通過しておくべき直接体験が明らかに希薄になったことがその背景にあるかもしれない。また、感染防止対策や、限られた授業時数の中で学習内容を消化するために、対話や協働的な学びの展開にまで、なかなか至らなかったこともその一因かもしれない。いずれにしろ、自粛や制限が解除され、教育活動が子供主体で展開されるようになった暁には、活動そのものを本人が思い切り楽しんだり、没頭したり、試行錯誤しながら乗り越えることができるよう設定し、生徒一人一人が「もっとやりたい」「もっと学びたい」という気持ちを抱けるような取組を展開していかななくてはならない。

### (4) 南中学校が果たすべき役割

まず、教職員自らが社会に貢献できる一人の人間として、子供達に対して模範を示す中で、学校教育全般を通して、知・徳・体の面で子供達が持ち合わせている資質・能力を十二分に伸長し、地域はもとより、広く国内、世界を舞台として活躍し、貢献できる人材を育成していくことこそ、南中学校が果たすべき役割である。

## 4 「時を守り 場を清め 礼を正す」について

この言葉は、教育実践家、森信三（のぶぞう）の言葉である。

この三つが達成されている姿が、学校教育の理想像であることは間違いがない。ただ、重要なことは、この三つは、人に求めるものではなく、自らに課し、自らの戒めとするものであるということである。つまり、仮に人としての成長を期して子供達に求めるに当たっては、何よりも模範たるべき教職員が、率先して時間を大切に、約束事を守り、自らの容儀及び周囲の環境を整え、子供達の声に耳を貸す中、傾聴、挨拶、感謝の念を継続していくよう努めなくてはならない。それは、それで非常に難しいことではあるのだが、そのことに常に努めている教職員の姿を、子供達はしっかりと見つめているものである。その姿によって、言葉で示さなくても、子弟同行の歩みの中で、子供達が自然と感化されていくのである。そこに、「時を守り 場を清め 礼を正す」ことが具現化している理想の学校が存在しているのである。

## 5 学校経営の重点

### (1) 質の高い学習の維持と学力の向上

- ① 学習意欲向上のための個別最適化学習に向けて、生徒個々の特性を踏まえた学び方の指導を工夫する。
- ② 各教科等の系統性を踏まえた授業を展開し、気付く感動や学ぶことの楽しさ、分かる喜びを味わわせる。

- ③ 言語活動の工夫により伝え合う力を伸長し、内発的な問いから実感的な理解に向かう授業を工夫する。

## **(2) 個別最適化学習に向けてのICT教育の推進**

- ① 生徒、教職員ともに、アプリの起動と活用、データ保存等に係るICTスキルの向上を目指す。
- ② ICTによる教科等の学習の成果を蓄積・整理・活用できるよう生徒のICT活用力を高める。
- ③ 生徒の特性や個々の進度に応じた教材選択、学力定着に向けての最適なICT環境を提供する。

## **(3) 豊かな心の育成**

- ① 道徳の授業を要とし、学校全体で道徳教育を推進する中、互いを認め、思いやる心を育む。
- ② 特別活動や合唱、異年齢集団等との交流活動を充実させ、心に潤いのある生活を送らせる。
- ③ 総合的な学習、体験活動、著名人による様々な講話等を通して自分の生き方を考えさせる。

## **(4) 基本的な生活習慣の確立**

- ① 全校で「いつでも、どこでも、誰とでも、明るい挨拶」を推奨することで社会生活の基礎を養う。
- ② 自分のなすべきことを自覚させ、自己管理を行う（セルフ・マネジメント）を行う意識を育てる。
- ③ 日頃から計画を立てることの大切さを納得させ、見通しをもって行動できるよう時間意識を養う。

## **(5) 健康・体力の増進**

- ① 健康課題を日常的に意識できるようにし、体力向上に努めさせ、健康・長寿への意欲を育む。
- ② 健やかな成長を目指して保護者と連携し、家庭生活での規律正しい生活リズムを確立させる。
- ③ 学校活や家庭を問わず、常日頃から危機対応意識を高めさせ、防災・安全等に心掛けさせる。

## **(6) 感染症予防対策の継続**

- ① 必要に応じてマスクを着用するとともに、手洗いや消毒の継続、教室や活動場所での換気を心掛ける。
- ② 感染状況に応じて、ペアや小集団活動は工夫して行い、ソーシャル・ディスタンスを保つよう努める。
- ③ 毎朝の体温測定やChromebookでの健康観察を継続する中、風邪等の症状がある際は無理をさせない。

## **(7) 特別支援教育の充実**

- ① 通常学級との交流学習の機会をできるだけ多く設定し、共同学習の場を可能な限り保障する。
- ② ユニバーサルデザイン等を通して、教職員全員が関わることができる校内体制を充実させる。
- ③ 関係機関と連携して指導を進め、教職員の共通理解による指導・支援及び配慮を充実させる。

## **(8) 小・中連携の推進**

- ① 系統性・連続性を踏まえた教育課程の下、9年間で育てたい各教科等の資質・能力を明確にする。
- ② 自他を尊重する集団づくり、小・中交流活動、地域の諸行事への参加で自己有用感覚を高める。
- ③ 合同研修会等の成果と課題を小・中学校教員で共有し、教科指導等での教員の指導力を高める。

## **(9) 地域連携の拡充**

- ① 学校・家庭・地域が力を合わせていくことを通して、心身共に健やかな子供達を育むよう努める。
- ② 学校から家庭・地域へ適切な情報発信を行うことを通して、本校教育活動への理解と協力を仰ぐ。
- ③ 学校と地域の連携・協力を通して、生徒への教育的効果が地域の課題解決にもなるよう取り組む。

## **(10) 部活動の奨励**

- ① 部活動を通して、所属生徒の自主・自発の心を生かして、協調性、連帯感、挑戦する心を培う。
- ② 課外活動ではあるが、重要な教育活動との認識のもと、所属生徒の資質・能力を適切に伸ばす。
- ③ 地域社会へ運営移行の動きには慎重に対処し、所属生徒や保護者には、正確な情報を提供する。